

大会名 Competition	第27回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-110	Year Month Day Time 2014 年 5 月 4 日 16 : 30
場所 Place	能代市総合体育館



チームA 能代工 92 ○	<table border="1"> <tr><td>23 1st</td><td>35</td></tr> <tr><td>16 2nd</td><td>18</td></tr> <tr><td>29 3rd</td><td>13</td></tr> <tr><td>24 4th</td><td>25</td></tr> <tr><td colspan="2">OT</td></tr> </table>	23 1st	35	16 2nd	18	29 3rd	13	24 4th	25	OT		チームB 市立船橋 91 ●
23 1st	35											
16 2nd	18											
29 3rd	13											
24 4th	25											
OT												

主審:Referee 谷地 温 秋田
副審:Umpire 芳賀 聡 福島
古川 俊和 福島
テーブル・オフィシャル:Table officials 湯沢男子

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	×	長谷川	暢 CAP	33	3	11	2	0	4	×	戸田	貫太 CAP	9	0	4	1	1
5	×	荒木	直	2	0	1	0	1	5	/	川島	翔吾	0	0	0	0	0
6	×	中村	碧杜	10	0	4	2	0	6	×	平良	彰吾	8	0	4	0	1
7		渡邊	竜也	-	-	-	-	0	7	×	青木	太一	28	0	10	8	0
8		猪狩	渉	-	-	-	-	0	8	×	杉田	涼	15	3	3	0	4
9	×	小室	望海	20	4	3	2	2	9	×	岡野	直樹	23	5	4	0	2
10	/	斉藤	大輔	2	0	1	0	1	10	/	川上	海斗	0	0	0	0	0
11	/	金久保	翔	12	1	4	1	2	11		渡辺	和人	-	-	-	-	0
12	×	幸崎	竜馬	13	2	2	3	2	12	/	畠山	大介	0	0	0	0	1
13		植村	太一	-	-	-	-	0	13		棟方	啓介	-	-	-	-	0
14	/	盛實	海翔	0	0	0	0	1	14	/	白井	虎太郎	0	0	0	0	0
15		柴田	一真	-	-	-	-	0	15	/	邱文	昊	2	0	1	0	2
16		大高	祐哉	-	-	-	-	0	16		金子	翼	-	-	-	-	0
17		長谷川	翔	-	-	-	-	0	17	/	菅野	竜介	6	2	0	0	1
18		藤原	健人	-	-	-	-	0	18		増田	修大	-	-	-	-	0
コーチ		佐藤	信長						コーチ		近藤	義行					
アコーチ		柴田	直宏						アコーチ		杉下	卓					
合計				92	10	26	10	9	合計				91	10	26	9	12

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3ポイントシュート 2P:2ポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

1Q、両チームともマンツーマンディフェンスでスタート。序盤から速い展開で点の取り合いとなる。能代工は#5荒木のジャンプシュートやポストアップからのバックドアプレーで#4長谷川が得点すると、市立船橋は#7青木のドライブや#8杉田の3Pで応戦し一進一退の攻防となる。中盤、市立船橋は#7青木、#8杉田のインサイド、#9岡野の速攻で連続得点したところで能代工はタイムアウト。流れを止めようとする。しかしタイムアウト後も市立船橋は攻撃の手を緩めず、#7青木が積極的なドライブで加点して23-35と市立船橋が12点リードで1Qを終える。

2Q、能代工は#4長谷川のジャンプシュートやドライブで反撃するも、市立船橋は#6平良の速攻、#7青木がドライブ、速攻、インサイドと多彩な攻めで得点を重ねて大きくリードを広げる。能代工はフルコートプレス仕掛け、ディフェンスからチャンスをつかもうとするが、シュート確率がなかなか上がり苦しい展開となる。それでも粘り強く守り続け、終盤#9小室や#4長谷川の3Pで一時的に20点以上離れた点差を縮める。39-53と市立船橋リードのまま前半終了。

3Q、能代工はフルコートプレスで相手へのプレッシャーをさらに強める。これが機能し、#4長谷川の速攻や#9小室の速攻、3Pでじわじわと点差を縮める。残り1分を切ったところでコーナーから#11金久保が3Pを沈め、66-64と、ついに能代工が逆転に成功する。市立船橋もすかさず#9岡野がオフェンスリバウンドから得点し同点とするも、終了間際に#4長谷川のドライブから得点した能代工が68-66とリードして3Qを終える。

4Qは両チームともアウトサイドのシュートが良く決まり、見応えのあるシーソーゲームとなる。能代工は#12幸崎、#4長谷川、#9小室の3P、市立船橋は#9岡野や#17菅野の3Pで得点を重ねる。残り1分を切ったから、市立船橋は#9岡野が3Pを決め92-91と1点差につめ寄る。その後能代工のオフェンスを守りきった市立船橋は残り13秒で最後のタイムアウトを取る。しかし、逆転をかけた最後のオフェンスを能代工がしのぎきり、92-91で能代工が逃げ切った。両チームとも強い気持ちでプレーによく表れた好ゲームであった。